

## 学校評価（第三者評価）の取組み状況（概要）

### 1 実施時期（期間）

2019年10月28日～10月30日

北星学園余市高等学校

- ・ 学校見学、授業参観
- ・ 寮、下宿の訪問
- ・ 修学旅行実行委員会会議の見学
- ・ 生徒会執行部メンバーとの懇談会

### 2 参加者・評価者

青砥 恭 （NPOさいたまユースサポートネット代表）

小野 善郎 （和歌山県精神保健福祉センター所長）

津富 宏 （静岡県立大学教授・社会学者）

前川 喜平 （元文部科学省事務次官・現代教育行政研究所代表）

その他 静岡県立大学津富ゼミ学生が5名参加

### 3 評価の視点

- ① これまでの評価において、北星余市における生徒の生活指導の面で様々な関係団体や有識者から一定の評価を得ている一方で、生徒の教科指導の視点では視察を行ってこなかった。
- ② 今年は、生活指導だけでなく教科指導や学習内容などにも視点を置いた視察を行うことを目的とした。

### 4 評価結果（ポイント）

#### ① 生活指導の視点では概ね高評価

修学旅行実行委員会（2学年）の会議の様子を参観し、前期生徒会執行部メンバー（3学年）と懇談した。また、男子寮と女子寮それぞれ一軒ずつ管理人と懇談した。その参観や懇談の中から生活指導の視点での評価をいただいた。生徒と教員の議論の際の仕掛けや視点では概ね高評価をいただけた。権威的にならずに向き合う教師の姿勢や、生徒同士の議論の中で対等に話し合える関係など、これまで本校が大切に守ってきた関係性が維持できている。

#### ② 教科指導や学習内容では発展・改善が必要

本校の教科指導や学習内容については、改善点を多数指摘された。特に、数学や英語といった基礎学力を問われる教科について、生徒の中で学力差が大きく影響する教科の指導の難しさは理解されつつ、教材の工夫が求められた。

場合によっては、一斉授業の形ではなく個別指導の形式での展開や、教科をまたいだ授業形態も提案された。例えば国語と音楽を合わせたミュージカルを授業として設定するという方法があることも教えてもらえた。反対に、北星余市の教科指導は、完全に諦めて生活指導のみで成立させてもいいのではないかという提案もあった。

今回の評価では、教科指導や学習内容に関して発展・改善の必要があることが明らかになった。